

やま  
と  
記事



又又と記事 享保二十年 上下二冊カ 天理園 珍

山々為さるる遊々遊々の聲

人々あつた名あつた水と海

とつた遊々も流々流々の聲あり

あつた岸は島嶼の山と水と

とつた遊々もあつた遊々も

あつた遊々もあつた遊々も

あつた遊々もあつた遊々も



園と為すなり一宗古に張りて  
橋平彌志子久一里志り一の  
事不仕て恒にたれまゝに居給  
りたり一と名に為る上は川中  
帯と末に或は神託を伴ひて  
人の業をくきまゝに考へ  
はるし一説にまづひとに

とまはれ給ひて一説に  
春向とて一南の園に於て  
せんまじりたりとて一説に  
志まはれ給ひて一説に  
とまはれ一説に  
はるし一説に  
はるし一説に  
はるし一説に

書翰の序はもと糸のひも  
結ぶの味はふらふら舞

東武白兔園主

宗瑞

美久く

君乃白の嘆き新の節歌らるる  
雪ちぬぬの雪とよふるる  
中をよしゆくはれ梅とれ文一  
若さうとよきい五十能町う間  
あしよの信たゝ嘆あゝよたの  
傍に日暮の影しゝやおれより  
開屋の巻初乃るふ小強中や梅  
草下は蓋なり東にふる雪の雲

のさるるのやうに軽引見の谷  
小たき梅の玉とすは布引の  
はくらの辰方尾の長くと民家  
のなれを者小くして梅木の字梅  
もとさるる谷の夫念花崗山と  
るうなり谷のうら子樹念念谷  
万株象方中山のなるうくを葉  
小くぬうくくして梅の古と花れ  
清くる満夜くく一回にともあはれ大  
きや人方物と交交ふふあはれ  
本小はるうは梅の直おとせう

花乃袂とうきほなるふと村よ後醍  
醐の二帝となくともまのり花小後醍  
らくくや芳やて義つひとかくくく  
先大友忠討ふと咲るよは或も天  
女といふくくり神ありふは舞の曲  
舞ともう返競了忠信を老小くも  
去るえ範と花小坪ぬ大塔の宮と  
老と梅とくくは信大園祿とあ跡し  
まよこれ花乃力ありくくや台盤を  
るくかの法代僧坊不字と新七十  
寶利琺瑯家と小はくぬあ産

戸小うさね民屋ふ修新二級之級  
乃岡村小交り遊僧乃舟乃考親  
中心を和し親人の之強と水の定  
と權は我親並小入まじい善哉藤  
小流も老翁乃乃雪と何とまじい  
親娘と外乃新と掩ふ又以伏ち親  
巾敷んと貝とをまじいくわう  
明禮を涙成て何とくいむ也詩  
新まじい文画乃志士其跡乃男  
女縁彈しして遊親をいし監集  
岡巻し満遠近人系屋窓空

小更成しと先なるの曉乃流ちを  
うさねとふし世をの守りし種し  
夕顔と惜む凡姉としよりさき  
その湖のく咲のふと奥の流と  
玉の所之十日の向とのやう  
ちりも娘ゆきとしりす  
此下戸佐久の翁としなりれ代に  
いさうれし禁し葉姉とい人  
さうさ成賣乃却る親親を  
七八歳とたう方者成賣海し  
や之玉一志と水の女老敬此地

秘義入線

小くは芝耀西海くくやくと  
地の間並あゝるくくは

樗園閑人

講古

車て又よわ

美小やけきるふや

正月之日志貴毘令門乃法會  
 之寫友はく事古連んじ其一  
 之そかへとら権衛法彩礼書洞小  
 之けけ多勢小所持遊乃小判高目  
 亦友あき一丈二之おき道小判は  
 當り多る人々富共を得して兼  
 福祿集は満了とて人あえる  
 之くを以口たり



福引

義人一致

絆乃露

沾洲

洞龍年



一、ゆき寺小く、西の梅より  
 深谷の麓、と教訓、ふを折ふく  
 糸、新れ人、とけく、ふり、御衣  
 更、現、日、蘇、王、持、取、乃、堂、の、屋、根、の  
 と、り、あ、く、る、人、を、あ、い、り、り、と  
 帰、る、是、と、と、と、醜、と、と、と

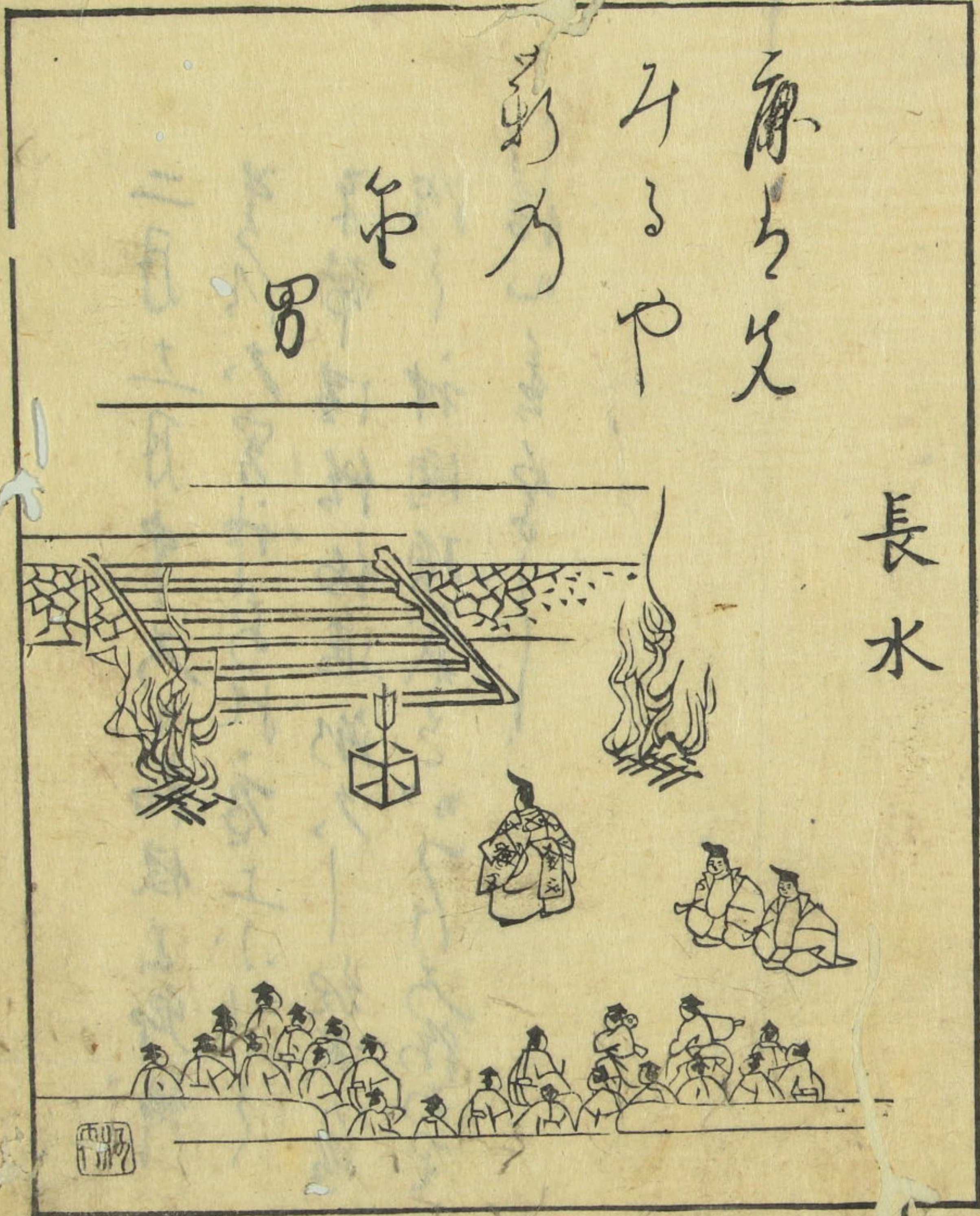


一、花、院、の、花、を、  
 後、お、て、う、け、し、わ  
 造、院  
 貞、佐



うら七口より南へまゝと申す  
 南大門前乃まゝのくちやちま  
 各能あつしむ門下小の衆徒立並  
 乃備りし時乃梅をこまれば右に下  
 其外後人並に又海の方へまゝ  
 舟を置る人あり一檀くくま  
 とりしは是夜よりまゝと申す  
 乃ん七つ乃の始りまに在し  
 二ヶ所新築ありありと

長水



二月十一日申より日初候と御辨  
 事乃大宮神ありて上小一々  
 子帯法帳の進漸久一様式  
 酒神酒頂戴とて下付る御あり  
 信心善なり



うさぎのりやうとらうをりつ  
 ちもナニ。あつた。炬をえさるの。小を  
 帝下より僧おとす。それ舞臺を  
 あり通る。こむ。事乃斬小。燈心。下  
 聖とい。しと火。う。川ら。又。堂。下。若  
 校乃井。と。井。乃。外。ハ。家。ふ。し。帯。わ  
 あけ。け。あ。漏。け。束。お。ハ。の。け。僧  
 あり。て。あ。校。く。し。い。し。こ。あ。り。校。ち  
 海。と。え。山。く。あ。と。し。い。し。こ。あ。り。校。ち  
 し。解。け。き。あ。の。こ。



紅梅やよす炬れ消と  
 青峨

1111  
 1111



文殊三才

七ノ小ノ口

咫尺

香賢像



法隆寺去式二月廿二日し書塔  
 文殊一也又三年小ノ口ノ香賢  
 ありつゝとたふ式しはち内ノ  
 前見世物賣物市とあり

當解子と云ふ式は十五乃菩薩來  
 迎おはし申す非とむう一由く祈お  
 なるこし教誡供養のいと云は  
 三河の里村乃良而といけり  
 くを將來とて仰とかりし  
 常りうると十中日榮屋うけ授け  
 して糸福縁の糸引とて  
 又蓮念乃夏くぬむとみ石とて  
 かき川の形うけりてとて  
 祈しむ

陽也

聖子

忠

美

福

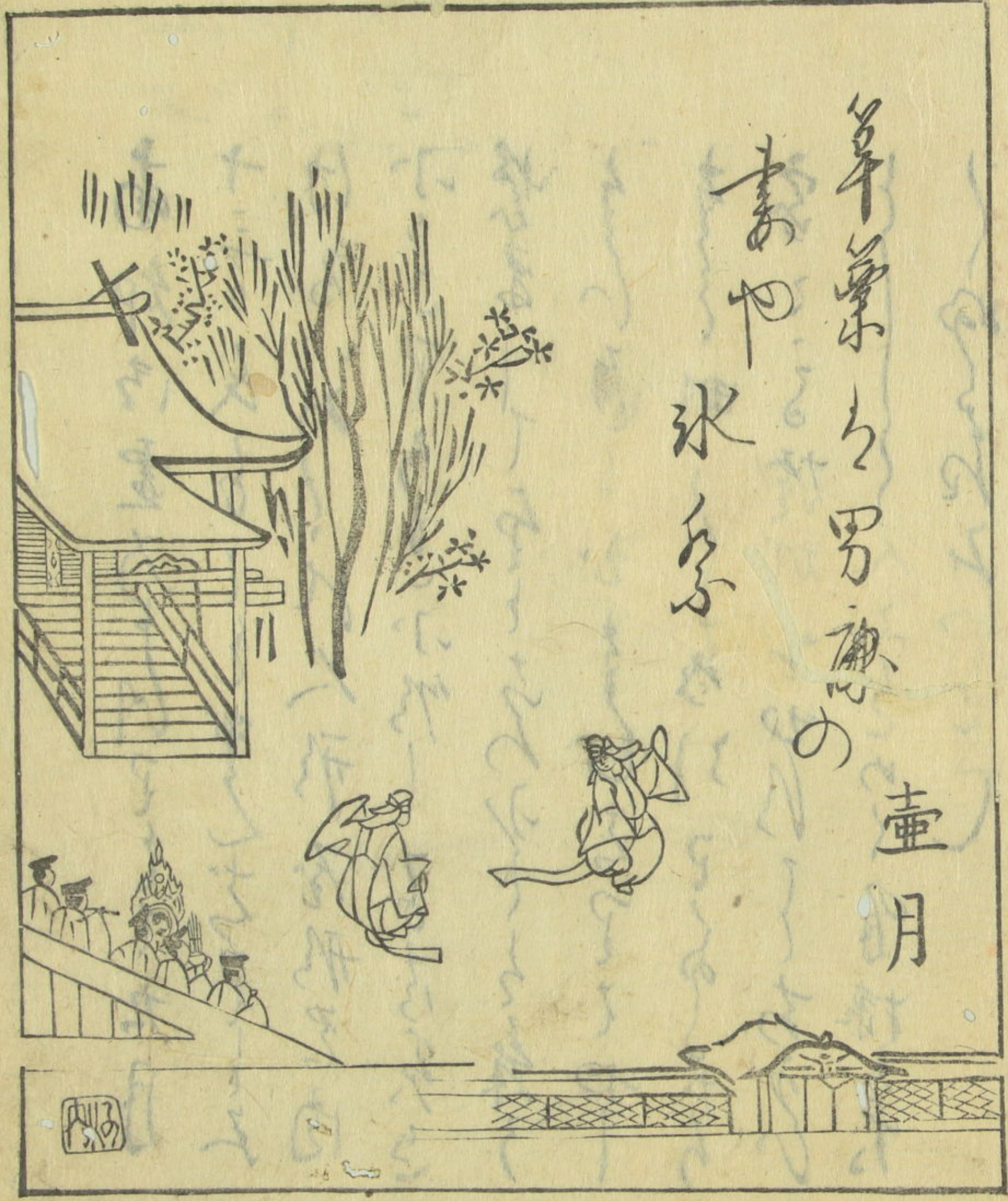
供養

乱絮

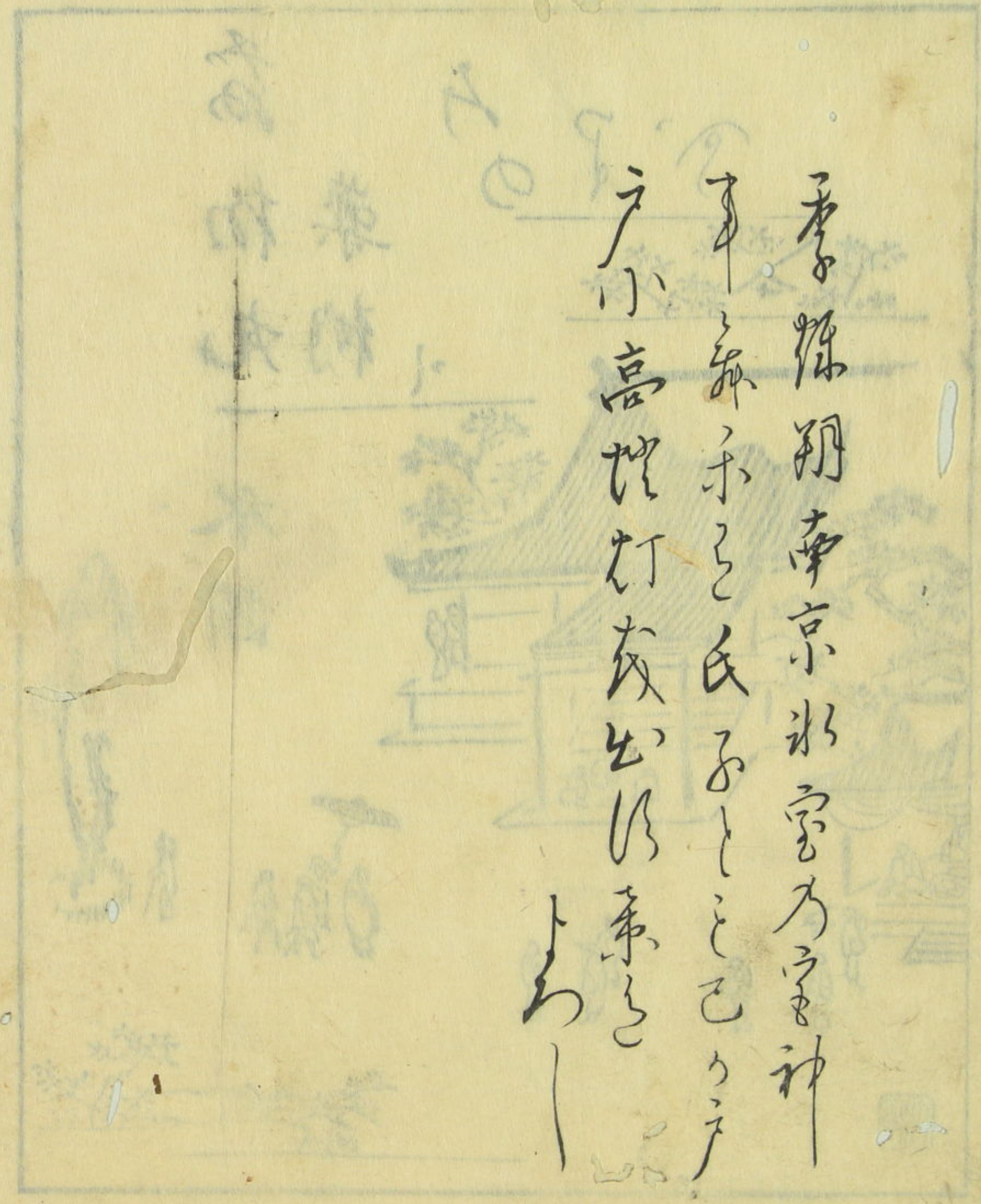




葉月十六日より廿四日まで西大寺  
 寺に會つて讀經香を擧げし  
 事蹟心志の角友解は又名を  
 明らしくして豊心丹と神名は



草葉の男  
 書也  
 氷系  
 の  
 壺月



季 殊 翔 南 京 氷 系 乃 宇 神  
 事 系 示 之 氏 子 之 己 乃 产  
 戸 小 高 燈 灯 友 出 以 系 之  
 上 之



南却清靈乃十月日として九月  
 十二日女もしと事しとてしと  
 はあいあし人形屋形名肉  
 小うさうさう小物しりるはあさ  
 情来して命とあらふ少とと舞う  
 とき通るまきまきとてしとや  
 とき明くあ引己あたる  
 家こる燈灯と物りしとあまの  
 とくく人くくめく有様と定  
 しあまのりやこし



常仙

新  
 甲乃神也  
 夜





素丸とて百多の大明神  
 神樂と申上り宮小源系  
 一、源系とて河の丸



十  
 了  
 水  
 日  
 清  
 中  
 何  
 已  
 少  
 少  
 何  
 何  
 已  
 人  
 就  
 回  
 尔  
 七  
 姑  
 離  
 亦  
 已

清中川アノコトヲトセ七日ヨリモモ  
旅路一清神幸おぬ七の刻と  
うの御遺教を常口成の御教  
さゆノコトヤ一先中川乃下流ア  
し云るう大善衣の内南乃去  
小新の相あて来ととふ所乃  
更一人衆後と僧を並は丁専  
坊ホ志をうわて夜ホ乃俊あて  
法道乃相書一書重々乃新  
英に清き一もあ大乃所乃内

とみちらにわたり  
信所遊りて

東江流雨入夕日大稲摩 南京 古道

ころとみちら新飯おれ川せ 東武 南畝

とせもち龍遊きことみち 甲陽 調佐

之 鞠 行

一山おる一山おる  
ししきいしきい

三輪市乃何町源一松立る

南都

竹人

花の源

花の源

藤原や人の明日香の香うに

浪花

嗅洞

初瀬梅

しほせ小あつ又昔々  
あつあつしほせの  
らんしつせの  
ア子と佐賀あるこ

糸禮乃列々祝湯帯むめの白  
杖十列々更白乃けりい階後八海  
源宮乃々巫女御神子湯釜あり  
室、乙女細界懐赤二村大子あり  
長乃更競る射乃乃更隨兵  
糸也る將る中乃中乃大乃長  
刀小乃刀新日人乃場後湯々々  
大小乃乃毛柄中乃新乃  
曰亦乃りい乃乃情性乃御供  
流滴る糸赤角乃口乃使糸帯  
南大門後乃乃屋坊曰赤能

其日後口方解てんく法師之春舞  
 あし末品あげしけくさきし  
 南部多神ありあつてしし  
 ちししおしし人ししし  
 なる

(Faint bleed-through text from the reverse side)



常うさし

いししし

雷人書

魯三



昔方なりてあはれは能くもなげの能  
 清八海峯示を延年の舞或  
 なるなるの佛初漸れは名  
 あましとらしとおれした  
 くぬちよと薄とせし  
 ゆるなり

懸梅

常乃ちふる中好如  
 蓮系なりけふける  
 さくしうや

いとゆふ梅乃むし湯が 其風

う絶てし流系や梅の壺さす  
浪花 芦關

深出好いとうけ住冬に沈の雪  
甲陽 風和

初漸映梅

以に河を下盡下り人  
造詣しして一

東都

橋市より福あり山梅

調柯

ことアにひるふし福や咲梅

藕由

古川中流

そはせ川ありと云ふ乃  
すきありは乃を清と  
すきし

橋うらちや海橋君古道若廟

南都

梅七

橋を橋や橋なるを所と二乃為  
笙歌

外山柳

あきまの西外山あり  
甲子小川

はた織苗らむとみらう山此所  
伏見

幸化

緩い駈けやとわの里柳  
今井

眞弓

楊子妃梅

眞福より南大門のありふ



あはれしうしう宗と云  
僧あはれして吃しは  
後人揚人地さくしは

暮合して夕日ときこゆる梅が

邑葉

竹たしんふさふてしきまの紙

時習

洞風

まる山入小あはれ  
おひさめくせは

みくのや鶴梅乃月城のねん

魚子

山姥乃梅乃りんあしとみ板

右鷹

糸梅(夕日照る)小梅乃那

蚊背

あ  
兜  
押

あさみしアいとより  
うけしとしん  
いとし柳なり西大さふ  
あ

ちし押や杉舟田とほ乃味

五桂

不為う同は務乃やあ

分馬

浪花

鏡の引研を束後り了甲陽 如行

南田堂存

眞福寺千光神札所  
小して福院ホの友  
友うはひりし書物  
紙小とま口の神徳と  
のせしもの

紫咲や北う白濁神の詠東都 岑水

看波やうううううう甲陽 白芳

長谷江紫

どこの子方然ふく姉初階乃浪花 千苗

乃の花かむめ小町うしも席下江州 輕身

良辨村

そとをのこ小あつは  
むしうは無悟正徳う  
しりしは初一なる  
古記の

鏡乃うをうあや松あぢ南都 樂只

通母松

當ノ本草のあふ  
甲お酢植のいし  
うや泥母の居  
方へを根をいし  
又去或乃日去  
これと泥母乃蛇と云

いしぬぬ世ふ後帯はの香今井歌水

思ひ志すし香とくさる甲陽挑之

美衣原

香ふじう一原と枯る

其後を衣乃う小  
打衣打衣の葉衣

宮付う来ら向ん右の屯 月夕

隠雲

ありしや清舟山の側

為はぬ志くまら中や隠雲 如流

芳中櫃

しや西の字流門  
のきやのよきも  
しよるもたも  
たもとらりある  
小の極の  
小と他の高の令  
流るうこと

姑乃能行志ぶし 極所 東武 楚石

新らね

まのりたきる  
あつし  
の宛は下

とるけつみどり乃新と神の松 如元

衣懸玉

天香久  
のた身

卯の花と松小又原る且うか 相川

新の雪

松花ち舍利寺のあ小

あつし古口の神新の  
あつし俗説

神成物箇々るあつしあつし

芳袖

存うげ柙

宗

後代の沈んだ東の芝  
そせ小字一とさるる系女の  
衣成うけり柙とや

あつしと活け肩やむし清

今井 不秋

沈あつしむし清と教柙

其通

附録

奈高の八重梅は沈年真福寺

親禪院内東園を乃あつし

又東より寺の鳥小とさるるありし

活承しと火小古木元如解禪

今あつし中不留平住と小存す

八重梅と又る目や

奈高の系

野々口

立圃

作真

虎し佳吃そお海くを

風虎子

雪乃交わ心い流小下く大河

いはし何そて時小あううハ

季吟

思ゆて入あや中ちのあううハ

立圃

又花流り踏るうう家小

藤原の時雨とゆいねあゆとる

仙鶴

